

医療的ケア児の支援に関する市町村情報交換会結果（概要）

- 1 日時：平成 29 年 1 月 24 日（火）15 時 00 分～17 時 00 分
- 2 場所：神奈川県総合医療会館 1 階 AB 会議室
- 3 参加者：市町村担当者 31 名、県医療課、県障害福祉課、県立こども医療センター
- 4 報告
 - (1) 県内の医療的ケア児の状況について
 - (2) 小児等在宅医療連携拠点事業について
- 5 講演『 小児在宅の課題 』

横須賀市立うわまち病院 小児医療センターセンター長 宮本 朋幸 氏
- 6 意見交換

（主な意見交換）

○ 議題 1 「医療的ケア児の保育園・幼稚園の受入について」

【平塚市】

市町村によって様々な対応をされているが、看護師を配置していて受け入れができてい
るところもあるかと思う。看護師配置は 1 園につき何名なのか。1 名の看護師だけ
で対応するのは難しいのではと推測するが、看護師の配置状況を教えていただきたい。

【横浜市】

受入ということに関しては他の市町村と変わらない。看護師がいるから必ず受入ができ
るという状況ではない。個別の調整で、痰の吸引、導尿、経管栄養のケアに限るが、障害
児保育の枠組みの中で保育士を加配ができる仕組みになっている。

看護師の配置も可能だが、保育士の加配で余力を生み出して医療的ケア児の対応をする
という仕組み。看護師は 680 施設中 293 配置しているが、どのくらいの数の保育園で受入
しているかについては、把握していない。

【川崎市】

今年度から加配した。保育自体は担当保育士で、医療的ケアは看護師が担当。常時、そ
の園には配置をされている状況。

【葉山町】

町立保育園は1園のみ。アルバイトの看護師を午前中に週4回という形で雇用している。受入実績は、障害児の交流保育という事業を使って、週3回から受け入れた事例があった。

アルバイトの看護師がいる時間帯に、プラスアルファで訪問看護師についていただき、吸引に対応していただいた。数ヵ月後、母親自身で地域の幼稚園を見つけて公立保育園で大丈夫だったからと受入を許可してくれた幼稚園があり、移られた。

【秦野市】

医療的ケアの必要な子については児童発達支援事業所を利用いただく形。こども園に病時保育をしているところがあるので横浜市のように痰吸引や導尿はできないが、てんかん程度の児童なら受け入れられるということで、28年度1名入園した。その園で看護師は数名配置している。

○ 議題2「各機関の役割分担について」

【藤沢市】

乳児の分野は母子保健だが、就学後は相談場所どこに行けばいいのかとなる。医療ケアが含まれてくると手薄になっている印象。相談場所を一元化しようと取組んでいるところだが、医療ケアとなると福祉部門は身構えてしまう面がある。母子保健で見ていた方が急に途切れてしまう現状もある。

【横浜市】

国からも示されている協議の場の設置ということで、保健医療、福祉、教育、保育を所管する部署の事務的な課長会議をしたところ。一堂に会することは今までなかったので、できたことは一つの進歩。今後、外部機関をいれて協議の場をやっていきたいと考えている段階。

【逗子市】

特別具体的にルールを決めているわけではなく、ケースのお子さんが出てくる課題に応じて、就学が課題であれば教育の関係から各機関に声をかけたり、通学の面が課題であれば福祉が音頭をとったりしている。虐待のケースであれば子育ての部署へという形。ルー

ルではないが、ケースの積み重ねで結果としてそういう形となっているのが実情。

○ 議題3「福祉と医療の連携について」

【茅ヶ崎市】

横浜市さんがメディカルショートを市単でやっている。協力医療機関はどんなところで何ヶ所あるのかと、医療職と福祉職は具体的にどんな職種か聞いてみたい。また秦野市さんのほうで保健福祉事務所が主体となって連携とっていく動きがある。どのような動きがあるのかわかれば教えていただきたい。

【横浜市】

メディカルショートの実施機関は10病院ある。基本的には公立、市立病院と地域中核病院と民間病院さんの中にはある。協力機関との連絡会メンバーは、医療職は病棟の師長さん、福祉職はMSWの方。あくまで事業の部分で実務者の方との会議である。横浜市の福祉の実態や区役所のCWが対応しているものを本庁機能の中で各病院と調整している。

介護者の病气や冠婚葬祭やレスパイトを目的としている。各病院でも障害のある児の在宅を支えていただく、慣れていただくということでこの事業はスタートしている。24年度からスタートして、これまで在宅の呼吸器を受け入れてくれなかった病院さんにも受け入れていただいたりと、在宅の生活を支えることにも一つ進歩が見られている。各機関とのネットワークを構築していくためにもこういった事業もうまく取り入れていければと考えている。

【秦野市】

単独で医療機関と連携をとっているということはないが、保健所が中心となっている母子保健委員会がある。秦野市や伊勢原市の障害と教育、訪問看護ステーションが入っている会議。小児慢性特定疾病の児について話し合いをしている。保健所の担当からは病院についても連携をとっていきたいという動きはある。

【愛川町】

医師会との打合せは医療的ケアに始まったことではない。色んな保健事業を実施するうえで、乳幼児健診に従事していただく医師を選出していただくとか、成人の検診をやって

いただく中で長年定例化している。

厚木医師会長が児童発達への嘱託医を受けてくれており、厚木市さんではモデル事業をやっているが、同じ医師会ということもあり、地域の会議では枠を広げてくださったというふうに聞いている。そこでは医療ケアのあるお子さんがまず厚木地域でどのくらいいるか出してみようという話となった。本町は2名ということで報告するが、これからの取組みと思っている。厚木市の事業に乗りながら一緒に解決していきながらと思っている。声か

けいただいた厚木HWCには感謝している。

○ 議題4「サービス情報の不足について」

【開成町】

厚木市の市独自でメディカルショート制度もあり、ガイドブックを作成したという記載がある。作成するのにどのように情報収集したのか教えていただきたい。

【県医療課】（厚木市は欠席）

ショートステイ事業については、参考資料1については、制度の概要については厚木市立病院のところをご覧ください。自立支援協議会で、在宅でケアが必要なお子さんの保健医療ガイドブックを作成している。障害者手帳についてだとか、受けられるサービスについてだとかまとめたものである。

6 その他

次回開催時の内容検討の参考とするため、後日アンケートをメールで送付（別紙）

（以上）